

The Prince Charles Hospital

Australia

月岡祐介 先生

2016 年

今年（2016 年）の 4 月からオーストラリアのブリスベンで研修をしている月岡祐介と申します。今回は現在の病院についての概略を書かせて頂きます。

現在働いている The Prince Charles Hospital はクイーンズランド州の基幹病院で、同州で唯一、心・肺移植を行っている病院です。年間の開心術は約 1500 例（成人のみ、小児なし）、心移植は年間 20~30 例（オーストラリア全体で年間 90~100 例）。オペ室は 4 室（心臓 3・肺 1）。

必要だった資格は、IELTS（全ての項目で 7 以上）と外科専門医でした。AMC examination というオーストラリアの国家試験もありますが、Registrar という立場で働く上では、その試験は必要ではありません。ちなみに、ニュージーランドの IELTS 要件は（スピーキングとリスニングが 7.5 以上、ライティングとリーディングが 7.0）です。

ポジションの呼称がややこしく、申し込みの際に非常にわかりにくかったので、これからクイーンズランド州で働きたい方のためにポジションについて簡単に説明します。

<https://www.health.qld.gov.au/employment/work-for-us/clinical/medical/career-structure>

まずは、若い順から、Intern（1 年目）、Junior House Officer(JHO, 2 年目)、Senior House Officer(SHO, 3 年目以降)となり、これらはまとめて Resident House Officer（RMO）とカテゴライズされます。通称”resident”と呼ばれる人達です。病棟業務を一手に引き受けます。カルテ記載、採血・画像のオーダー、病院間連携をやってくれます。この段階ではまだ専攻は決まっておらず、心臓外科に進みたい人は論文を書いたり、発表をしたり、SVG の創を積極的に閉めさせてもらったりと、ポイントを稼いで次の段階(Principal House Officer)に勧めるように頑張ります。

その上のポジションが Principal House Officer (PHO) です。多くの場合、日本からの臨床留学で得られるポジションはこのポジションになります。基本業務は、朝の回診（6時半位から）、日中のオペ室業務 or 外来 or 電話当番、夕方の回診。こまごまとした指示出しはレジデントに口頭でお願いすればやってもらえます。当院の場合、当直はなく、自宅待機です。例えば病棟の患者さんが Af になった場合、病棟の夜間担当のレジデントから電話がかかってくるので、電話で指示を出します。急変時は急いで病院に向かいます。到着するまで ICU や救急医が対応してくれます。

PHO と同じ業務を行うのが、Registrar です。PHO との違いは、オーストラリアの心臓外科トレーニングプログラム (SET) に乗っていることです。将来コンサルタントになる候補生たちです。このプログラムに乗るのが非常に難しく、オーストラリア全体で年間 5～6 人です。これに乗ってしまえば、6 年間で一人前になれるように症例が割り当てられます。

PHO と Registrar は混同してどちらも Registrar と呼ばれます。私は、現段階でトレーニングプログラムに乗っていないので PHO のポジションのはずですが、病院との契約は Senior Registrar というポジションで、州からも Registrar の給料が支払われています。給料は手取りで 1,000 万円くらいです。週休 2 日、且つ、年間 5 週間の有給付きですので待遇は良いと思います。当院には約 10 人の Registrar ・ PHO がいます。

晴れてトレーニングプログラムを終了し、試験に合格した人が得ることのできるのが、Consultant というポジションです。部長的な立場で、Registrar や RMO を従えて、チームのトップとして医療を行います。オペ室も割り当てられ、自分の裁量で手術を行います。収入は跳ね上がるようです。当院には約 10 人のコンサルタントがおり、その下に、私たち registrar が 10 週間おきにローテートします。

以上、簡単に説明させて頂きました。

質問などある方は遠慮なくおっしゃって下さい。